

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 108-8628  
 住 所 東京都港区高輪3-19-15  
 氏 名 株式会社 二葉 印  
 代表取締役社長 鈴木 英明  
 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社 二葉		
主たる事務所 又は事業所の所在地	神奈川県川崎市東扇島22-2		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	H	運輸業, 郵便業
	中分類	47	倉庫業
主たる事業 の内容	冷凍・冷蔵食品の保管		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	1,645	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	総務人事部
		所在地	東京都港区高輪3-19-15
		電話番号	03-3473-8210
		FAX番号	03-3447-7173
		メールアドレス	somu@ftb.co.jp
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成22年度 ～ 平成24年度 (報告年度 24年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

## 事業活動地球温暖化対策結果報告

### 1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

#### (1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

##### ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 2,637 (調) 2,109 t-CO <sub>2</sub>	(実) 2,705 (調) 2,150 t-CO <sub>2</sub>	(実) 2,713 (調) 2,156 t-CO <sub>2</sub>	(実) 2,754 (調) 2,189 t-CO <sub>2</sub>	(実) 2,558 (調) 0 t-CO <sub>2</sub>
削減率		(実) -2.6 % (調) -1.9 %	(実) -2.9 % (調) -2.2 %	(実) -4.4 % (調) -3.8 %	(実) 3.0 % (調) %

##### イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	收容能力		単位		t-CO <sub>2</sub> /千t	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値	
排出量原単位等の値	61.11	62.69	62.87	63.82	59.28	
削減率		-2.6 %	-2.9 %	-4.4 %	3.0 %	

##### ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	当該年度(22年度)は、原単位要因の收容能力に変更は無かったが、電気使用量は322,778kwh増加した。理由は、昨年度(22年度)夏季(7月~9月)の平均気温が一年より2.1℃高く猛暑日も多かったため冷凍機の負荷が高くなり夏季の電気使用量が増加した。また、在庫貨物の大幅な増加(前年比121.2%)による入出庫等の荷役作業の増加もあり、電気使用量が大幅に(前年比105.25%)増加した結果、排出量原単位の値が前年比2.6%増加したものの。
第2年度	第二年度(23年度)は、新規の設備投資や市の事業活動地球温暖化対策指針に基づいた全社的な省エネ活動への取組みにより温室効果ガス排出量を大きく削減する予定でしたが、震災等の外的要因により結果、排出量の値が基準年度比2.9%増加となった。 (1)取扱い貨物の増加…貨物の入庫・出庫量が増加(前年比入庫量3.7%増、出庫量4.0%増)したことに伴い、電力量は勿論、主に在庫時の荷役作業量にかかる軽油使用量も増加した。 (2)経済産業省からの通達…節電対策という社会的要請を踏まえ、会社として年間を通して取り組んだ結果、日中の電力使用料(冷凍機の稼働時間)を制限し、夜間の時間帯へ移行を図った。(昼間買電 前年比88%、夜間買電 前年比123%)
第3年度	第三年度(24年度)も、市の事業活動地球温暖化対策指針に基づき全社的な省エネ活動を展開して参りました。中でも設備投資におきましては庫内照明のLED化や屋上一部を遮熱防水シートへ張り替え作業を実施するなど積極的に努めて参りました。然しながら当センターの貨物取扱数量が年々増加傾向(前年比104%・前々年比128%)にあることや、昨年に続き節電という社会的要請のもと日中電力使用料を制限した結果、エネルギー使用量(原油換算)は前年比1.5%増という結果で着地しました。 計画期間内における当社の目標排出量の達成状況につきましては、第一年度から一貫して設備投資と並行し当社の身の丈にあった活動を展開してまいりましたが、削減率が-4.4%と不本意な数値で着地となりました。これは計画初年度に想定していた以上の外的要因(震災に起因する取扱貨物の大幅増など)が大きく影響したことが要因でございます。

#### (2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○推進体制の設備</li> <li>○主要設備等の保守管理</li> <li>○事務所等の空気調和の管理</li> <li>○照明設備の運用管理</li> <li>○建物の外壁塗装</li> </ul>
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○推進体制の設備：役員をトップに本社と全事業所を含めた組織的な委員会を設置し、推進体制を整備した。</li> <li>○主要設備等の保守管理：契約電力の変更に伴ないデマンドコントロールの制限の見直し（22年度、契約1350kw・デマンド値1250kwから、23年度契約1300kw・デマンド値1150kwへ制限）</li> <li>○事務所等の空気調和の管理：事務所・エントランスの空調の制限</li> <li>○照明設備の運用管理：事務所・エントランス・作業場の照明の制限及び、冷蔵庫庫内の照明設備（白熱電球）をLED照明化することとし、LED電球の導入計画を行った。</li> </ul>
	第2年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事務所等の空気調和の管理：事務所・エントランス内の換気を施す区画を定期的に外気導入を行い換気動力の低減を図った。</li> <li>○新設、更新等における措置：冷蔵庫庫内の照明器具（白熱電球）を省エネルギーで効率の高いLED電球へ交換した。</li> </ul>
	第3年度	<p>計画期間におきましては、当初掲げた5つの計画のもと、第一年度から一貫して設備投資と併せ当社の身の丈にあった活動を展開して参りました。この5つの計画の内、推進体制の整備、主要設備等の保守管理、事務所等の空気調和の管理、照明設備の運用管理の4つについては計画期間内に完了しましたが、建物の外壁塗装についてのみ（既に予算化・業者選定済）平成25年度の実施となりました。</p>
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	



## 4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	無し
第1年度	無し
第2年度	無し
第3年度	無し

## 5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	○廃棄物の分別化とリサイクルの推進を図る。 ○各種省エネに関するセミナー等に参加し、知識の向上、普及に努め、取組みを促進する。
第1年度	○廃棄物の軽量化および分別化とリサイクルの推進を行った。
第2年度	○引き続き廃棄物の分別化とリサイクルの推進を実施する。 ○引き続き各種省エネに関するセミナー等に参加し、知識の向上、普及に努め、取組みを促進する。
第3年度	計画年度期間にきましては、当初掲げた2つの計画のもと第一年度から一貫して設備投資と並行し当社の身の丈にあった活動を展開して参りました。廃棄物の分別化とリサイクルの推進は計画年度を通じて継続的に実施し、この間従業員に対しても各種セミナーへの参加を促し知識の向上、普及に努めることができたと考えています。

前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	3,056	t-CO <sub>2</sub>
(調)	3,050	

2) 事業所等单位（第 1 号、第 2 号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
東扇島冷凍物流センター	川崎市川崎区東扇島22-2	4721	冷蔵倉庫業	3,056 t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	

3) 事業所等单位（第 4 号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>
				t-CO <sub>2</sub>

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が 3,000 t 未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--